

「桑の実」メロディーボックス寄贈式・記念コンサート



「桑の実」歌碑前で撮影



記念コンサートの様子

宮良長包の音楽の継承と、発展に取り組む宮良長包協会による「メロディーボックス寄贈式」と「記念コンサート」が、6月28日に開催されました。

寄贈式では、字仲泊にある「桑の実」歌碑前で「桑の実」の歌が披露され、メロディーボックスが寄贈されました。

記念コンサートでは、宮良長包協会会員をはじめ、久米島小学校児童、球美コーラル楽笑部、中島みゆき民謡研究会が出演し、宮良長包ゆかりの楽曲を演奏・合唱しました。フィナーレでは、「えんどうの花」が合唱され、会場いっぱいに響き渡り、美しい歌声と演奏を通して宮良長包の音楽の魅力を多くの来場者へ届けました。

教育委員会だより

久米島町立学校等適正規模・適正配置について ～望ましい学校環境について～

これからの子ども達に求められる資質・能力について

文部科学省が定める学習指導要領では、教育課程を通じて育成すべき「資質・能力」を3つの柱として整理しています。これからの予測困難な時代を生き抜くための「生きる力」の土台となります。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

児童に知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指すに当たっては、各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら教育活動の充実を図ること、その際には児童の発達の段階や特性等を踏まえ、「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、資質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意することが示されています。

教育環境によるメリット・デメリット

文部科学省作成の手引きでは、学級数が少ないことの学校運営上のメリット・デメリットを示しており、デメリットを解消する手法として学校の統廃合、小中一貫型小学校・中学校（併設型・分離型）、義務教育学校、通学区域の変更（学区の再編）があげられています。

望ましい学校環境

将来の予測が困難な時代において、子ども達には、主体性、リーダーシップ、想像力、課題設定能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを育む環境が必要とされており、これらの資質・能力は、授業などで培われる個人で育む要素と、他者との関わりの中で育まれる要素の両面から一体的に向上させていくことが必要とされています。

結びに

現代社会は、少子化・人口減少・グローバル化の進展など様々な社会課題がみられます。このように変化が激しく先行きが不明な社会現実に対して、これからの社会を生きていく子ども達のために教育の果たす役割はますます重要となっています。適正規模・適正配置の取り組みでは、「子どもの最善の利益」を最優先に議論を重ねてまいります。

お問い合わせ 教育委員会 ☎985-2287